

御池クリニックの「アミロイドPET検査」とは



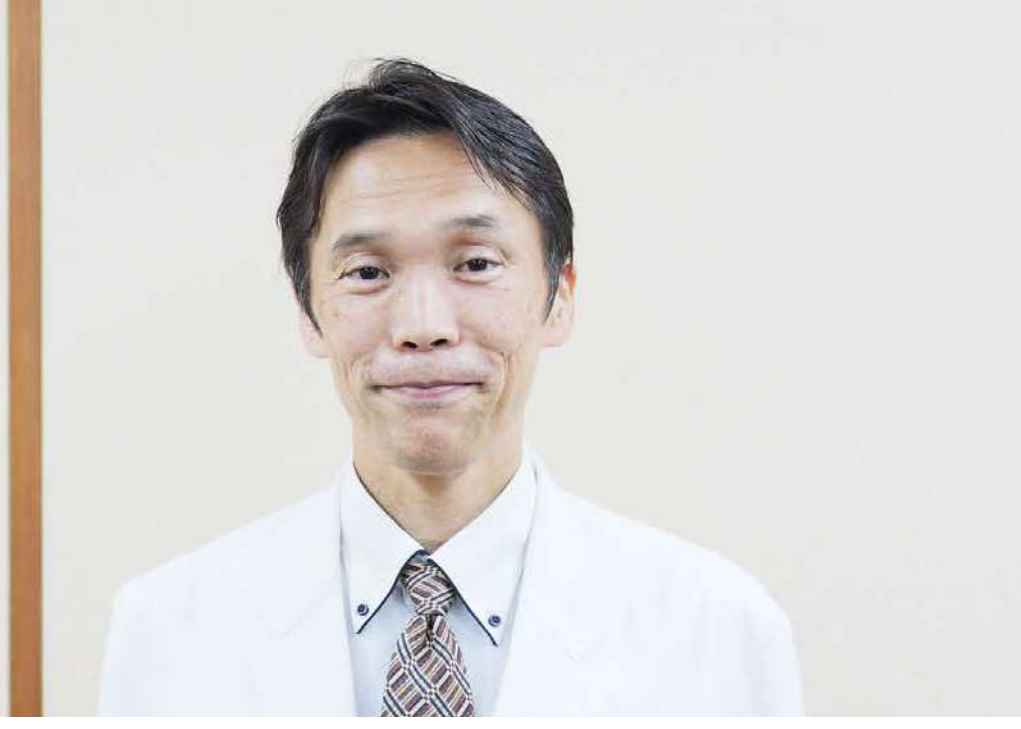
アミロイドPET検査について

認知症は、発症・進行を
予防する時代です

御池クリニック 所長
医学博士

脳神経外科医として京大病院、神鋼病院、滋賀県立成人病センター等で、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、脊椎・脊髄疾患などの幅広い患者さんの治療に携わり、その後京都桂病院で予防的リハビリテーションを実践するリハビリテーション科医として働き、平成24年4月当クリニックに着任

岸 陽



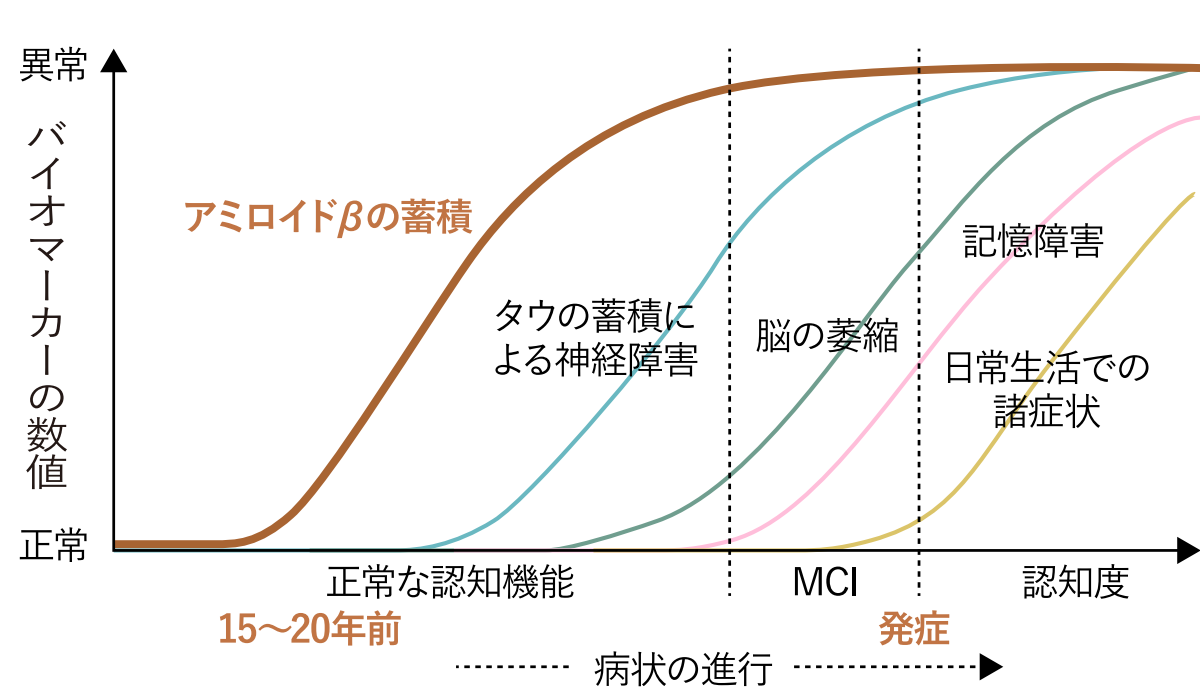
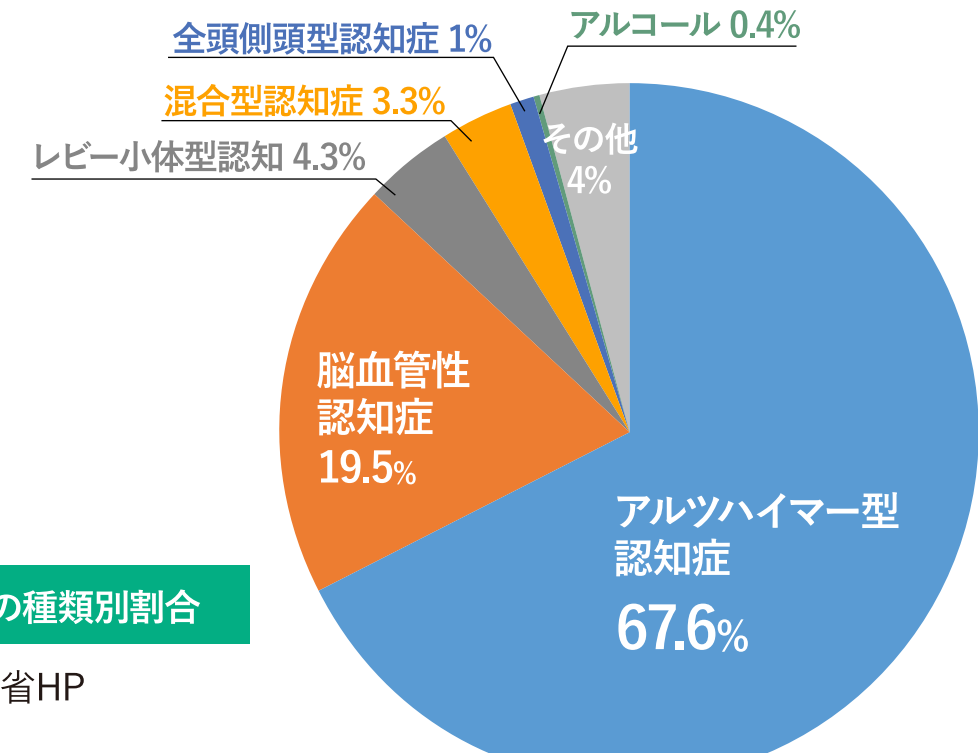
認知症の診断・治療技術は大きく進化しています

日本の認知症患者数は、2025年には700万人前後になると推定されています(平成29年版高齢者白書、厚生労働省発表)。これは65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症を発症するということ。今や認知症は誰でも発症する可能性がある疾患なのです。

現時点では認知症の根本的な治療方法は開発されていませんが、認知症の進行を遅らせる新しい治療薬が日本でも承認される見通しです。それが新しいアルツハイマー型認知症治療薬「レカネマブ」です。既に米国で正式承認され、2023年8月には厚生労働省の専門部会でも承認が了承されました。アルツハイマー型認知症の進行を抑制し、認知機能と日常生活機能の低下を遅らせる画期的な治療薬です。このように日本でもアルツハイマー型認知症の治療薬が導入され、生活習慣などの改善により、発症や進行を予防できる環境が整った今、私たちはアミロイドPET検査を導入するに至りました。

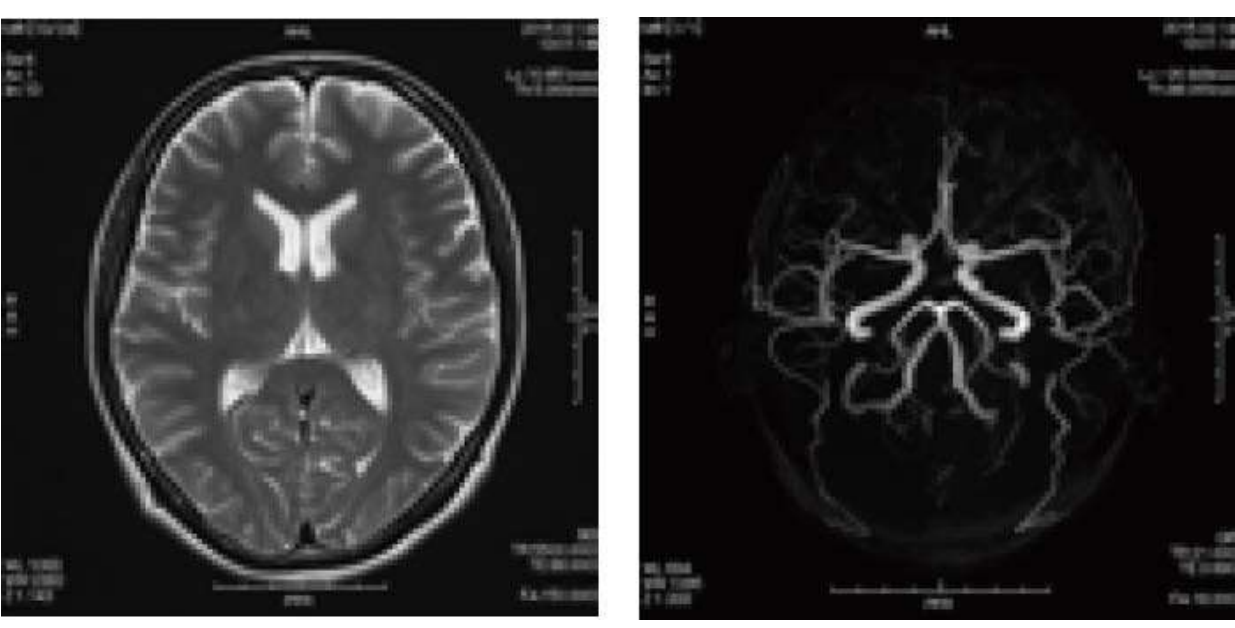
脳内のアミロイド凝集を画像化して早期発見・予防に

認知症にはいくつか種類がありますが、その半数以上がアルツハイマー型認知症と言われています(図1参照)。発症の原因は未解明ですが、「アミロイドβ」というたんぱく質が脳内に凝集することが引き金となり、タウたんぱく質が蓄積して脳萎縮が起こり、認知症が発症・進行していくという説が有力となっています(図2参照)。アミロイドPETは、脳内にアミロイドが異常に集積していないかを確認できる画像検査です。



しかし、「アミロイド凝集=認知症」ではありません。アミロイドはアルツハイマー型認知症を発症する20年以上前から脳内での蓄積が始まっていると言われています。脳の萎縮を判定するMRI、がん細胞に取り込まれたブドウ糖の分布を調べるFDG-PETなどがありますが、アルツハイマー型認知症に関しては、アミロイドPETはより初期段階での発見・予防をするのに有効な検査なのです。

画像検査と神経心理検査により総合的に判断



認知症の定義は、「脳の病変や障害などにより、認知機能が低下して日常生活全般に支障が生じる状態」のことです。アミロイドが凝集していても脳の機能に問題がなければ認知症ではありません。そのため、アミロイドPET検査と頭部MRI検査の2つの画像検査、そして神経心理検査による多面的な検査により、現在のあなたの脳の状態を精査。脳疾患発症予防専門の医師が今後取り組むべきことについて、具体的にアドバイスを行います。

今私たちがなすべきことは、3つです。

- アルツハイマー型認知症は、年齢を重ねると誰でも発症する可能性があるとして理解する
- 自分の現在の脳の状態を出来るだけ正確に把握する
- 認知症の発症をできるだけ遅らせ、認知機能・日常生活機能を維持するよう、最善の取り組みを行う

「早めて知って、早めて対処」が最も効果的です。

まずは現状を客観的に確認した上で、認知症発症予防のためにできることを一緒に考えましょう。認知機能を維持するために有効なのは、よい生活習慣を維持することです。そのきっかけとして、ぜひ検査を受けてみてください。



神経心理検査について

一人ひとりの気持ちに寄り添いながら
サポートをします

御池クリニック 脳の健康サポート室
公認心理師/臨床心理士

臨床心理士として大学の心理臨床センターや心療内科クリニックに勤務。認知症などの患者さんやご家族の不安や悩みにもふれるなかで、予防医療で社会に貢献したいと考え、2017年10月に当クリニックに入職。以来、脳の健康チェックやアミロイドPET検査の神経心理検査を担当。

大山 千津子



このドックでは、アミロイドPETとMRIの画像検査のほかに、脳の機能の状態を知るために「神経心理検査」を行います。脳の機能(認知機能)とは、「記憶機能」「注意機能」「言語機能」「視空間認知機能」「思考機能」などのことを言い、検査では簡単な暗算や記憶力テストなどに取り組んでいただきます。加えて面談にて食事や睡眠、運動といった生活習慣や日常生活の様子、不安やお悩みなどもお聞きしてアセスメントを行っています。



この検査は、高い点数を取ることが目的ではありません。「できた」「できない」とは関係なく、今の自分の脳の状態について客観的に知ることが大切です。認知機能が低下していないか、低下している場合はそれはどの機能であるかを把握できれば、今後の対策と一緒に考えることができます。日常生活で脳を鍛えていくことは、認知症予防に有効な手段の一つ。検査をきっかけに、普段意識しない脳機能を使うことが脳のトレーニングにつながります。

脳の健康チェックやアミロイドPETドックは「脳の健康診断」。身体健康診断と同様に定期的な受診が大切です。個室にて一対一で行うのでプライバシーを守ることができます。早くから検査を受けることで脳の健康に関する意識が高まりますし、経年変化を見ることが早期発見・予防につながります。また、「認知症の本人は自覚がない」という考えもあるのですが、最初に症状に気づき、誰よりも不安になるのはご本人だと感じます。面談でもその不安を語られることが少なくありません。

一人ひとりに寄り添いながらサポートをしていくことを心がけていますので、リラックスして受診してほしいと思います。